

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 東京大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

東アジアの公共政策・国際関係分野における最高水準の英語による学位プログラムを創成することにより大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの優秀なグローバル人材を育成する。

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で英語での教育による交換留学または及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈ソウル大でのサマースクール2012.8〉

### 単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

①相互で単位あたりの授業時間をもとに換算方法をルール化、②各大学の修了要件を比較、③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる、④学生の一般的な履修モデルを提示する。

### アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

集中講義形式のサマースクールやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行う。

### 人材育成ニーズに合った教育内容

課題を適切に認識しリーダーシップを発揮できる政策担当者の養成に不可欠な、国際的視野で異なる文化や社会を複眼的に捉え理解するという力や国際的なコミュニケーションの手段として高度に英語能力を高める教育を行う。



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈北京大学の守衛さんと、留学中の学生達〉



### ○ ダブル・ディグリー覚書の締結、キャンパスアジアコースの入試を実施

2012年8月にソウル大学校と、2013年3月に北京大学との間でそれぞれ、ダブル・ディグリーに関する覚書を締結し、キャンパスアジアコースの入試を実施した。

### ○ 交換留学の開始、サマースクールの実施

2012年冬学期より日中韓三カ国での交換留学を開始した。8月にはソウル大学校にてサマースクールを実施した。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

キャンパスアジアコースに在籍する学生を中心に派遣する。①交換留学(留学期間2校で1年)またはDD(留学期間2校で1年半)、②DDでは北京大とソウル大のどちらかを選択した上で人数調整を行いながら派遣時期を決定する。毎年各校に5名ずつ派遣予定。数字は実人数(サマースクール含む)

### ○ 外国人留学生の受入れ

BESETOで連携しながら受入学生の選考を行う。DDでは1年間、交換留学では1学期間の受入を行うため、東大にDDを希望する学生が増えると受け入れ人数も増える。数字は実人数(交換留学、DD、サマースクール含む)

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0 K0	C5 K3	C10 K10	C11 K11	C12 K12
中国(C)での受入	J11 K0	J3 K5	J7 K5	J11 K5	J14 K5
韓国(K)での受入	C0 J11	C10 J18	C5 J8	C5 J11	C5 J15

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 時間割に合わせた日本語コースの提供、インターンシップの機会の提供

通常授業の時間割と重ならないように独自の日本語授業を提供する。またインターンシップの機会を多く斡旋するため受入企業・機関の開拓を行う。

### ○ 受入学生への奨学金、派遣学生への渡航費を補助。Webによる情報発信。

受入学生には月額8万円の奨学金と宿舍の無償提供を行う。サマースクールをふくめ、海外派遣する学生の航空運賃を学生支援経費から補助する。また、キャンパスアジアのウェブサイト構築し、情報発信を行う。

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/campusasia/index.html>

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### シラバスの公開、学生アンケートなどの実施、合同委員会の設置

学生の履修方法などについては教職員に相談できるサポート体制を整える。修了要件やシラバスは、印刷物またはホームページなどで公開され、透明性、客観性を維持する。各科目の終了後には学生アンケートを行い、ファカルティ・ディベロップメントに役立てる。三大学の連携による合同の委員会がプロジェクトの運営にあたる。